

授業概要

私たちの身の回りには、商品やサービスはもちろん、工場の進出、人事など企業が発信する情報があふれています。そうした企業の発信する情報の中で、本講義は株主や投資家など金融証券市場に向けた情報開示活動（IR）を取り上げます。

金融商品取引法や取引所規則などによる法的開示や自主的な情報開示を具体的に追って、情報拡散の仕組みを知り、監督当局や各社の取り組みや株主・投資家を中心とした市場の対応について学びます。

授業計画

第1回	ガイダンス	①宣伝と広報 ②メディア向け広報と投資家向け広報
第2回	日本企業の発信情報	(1) 印刷情報とデジタル情報
第3回		(2) 法的規制の情報発信/任意の情報発信
第4回	(I) 法的開示	(1) 有価証券報告書と決算短信
第5回		(2) 決算説明会資料
第6回		(3) 株主総会：議決権行使書/事業報告
第7回		(4) コーポレートガバナンス報告書
第8回	(II) 任意開示	(1) 株主通信
第9回		(2) 会社案内/アニュアルレポート/ CSR レポート
第10回		(3) 統合報告書
第11回	(III) デジタル情報の時代	(1) 企業ウェブサイト・IR サイトの展開
第12回		(2) モバイルとソーシャルメディア
第13回	(IV) 日本版フェア・ディスクロージャー・ルール	(1) その背景・ルールの概説
第14回		(2) 2つのコードと到達目標
第15回	市場と経営を結ぶ情報開示が果たす役割	
第16回		

到達目標

企業の株主・投資家向け情報開示の活動（IR）を通じて、情報拡散の仕組みを学び、金融・証券分野に対する確かな知見を習得する。

履修上の注意

授業では、毎日の経済や金融・証券の動きを実例として取り上げるので、日々の経済や企業に関連する報道に関心を持ちたい。

予習・復習

企業の情報開示活動（IR）をよく理解するために、下記テキストの予習・復習は欠かせない。

評価方法

受講態度不良者は「不可」の評価とします。評価は授業への出席（40%）、授業中の議論（20%）、レポート（40%）などを総合的に判断し、評価します。そして講義への積極的な参加（積極的な発言など）によって加点します。

テキスト

「イチから知る！ IR実学」（米山徹幸 日刊工業新聞）
 また講義向けに資料を用意し、参照する図書や文献も適宜、紹介します。